

学級活動

○ 児童会活動

学校行事

### 令和7年度生徒指導サポート実践校「特別活動の取組事例」

学校名	大竹市立小方小学校	対象となる主な学年	第5・6学年
取組事例名	「保健スタンプラリー」		

#### ◆ 児童の実態及び取組を通して育てたい児童像

児童の実態	取組を通して育てたい児童像
<p>小中一貫校のため、5・6年生に高学年としての自覚が乏しい。</p> <p>主体的に考え、相手を意識して表現することが苦手な児童が多い。</p> <p>ルールを守れない児童が一定数おり、生徒間暴力の発生件数も多い。安心安全な風土の醸成が最重要課題と捉えている。</p>	<p>高学年としての自覚をもち、学校全体の役に立ちたいという思いをもつ。</p> <p>課題を見つけて、主体的に考え、解決に向けて行動する。</p> <p>安全に気を付けて生活を送る。</p>



#### ◆ 取組の具体的内容

##### 取組を実施する意図及びねらい

保健委員（5・6年生）が、主体的に立案、計画、実施し、高学年としての自覚と自信をもつ。安全な学校生活を心がけるきっかけ作りとなる。

##### 取組の流れ・創意工夫・児童の変容等

- ・ 取り組みの流れ
 

全校児童を対象に、保健委員が保健や保健室についてのクイズをスタンプラリー形式で行う。

保健委員の主体性を尊重することを意図して、最低限の安全性を担保した上で、取り組み方法（開催時間、場所、ルール）を児童に決めさせた。児童なりに準備をし、当日を迎えたが、結果、ルールの徹底が難しく、廊下を走り回る児童や、大声を出す児童などが出来てしまい、危険な状況も見られた。また、大休憩のみとしたため、参加人数が多くスタンプを押すことに精いっぱい、不正解の児童に解説することまではできなかった。低学年からは、「楽しかった。もっとやりたい。」という声は上がっていた。
- ・ 創意工夫
 

事後のふり返りで、児童から「やり直したい。再挑戦したい。」という意見が多く出たため、2回目を行うこととした。【自己決定の場の提供】話し合いを重ね、意見を出し合ってアイデアを練り、以下の点を改善した。①開始日を3日間に増やし、学年を分けることで混雑を解消した。②1年生にも理解できるように問題作りに配慮した。③不正解の児童にも丁寧な解説をして全員が理解できるようにした。④開催前に、保健委員が、昼の放送や学級訪問などをして、ルールの周知を行った。⑤イラストが得意な児童が特技を生かし、スタンプ台紙を作成した。
- ・ 児童の変容
 

当初、2回目を行うことは、想定していなかったが、低学年から「楽しかった。またやりたい。」という声があったことや、ふり返しをする中で、改善点に気づき、もう一度、自分たちで、より良いものを作りたいという思いをもつことができた。【自己存在感の感受】2回目では、さらに主体的に改善案を考え、課題を解決するために、委員会の仲間と協力する姿が見られた。【共感的な人間関係の育成】



#### ◆ 成果（○）と課題及び今後に向けて（●）

○保健委員を対象にしたアンケートでは、13人中12人が「やってよかった」11人が「役に立てた」と答えており、高学年としての自覚が芽生え、主体的に考えて、解決に向けて行動する意識をもつことができた。

●安全性やルールの徹底に課題があったが（2回目も廊下を走り回る児童が多かった）、児童が、課題にも目を向けることで、より良い学校づくりの視点をもつことができた。他の委員会にも広げていきたい。